

4 . 学習の方法

①学習の方法

反復練習がもっともオーソドックスな方法である。逆に、「図鑑や事典で調べる」などの方法は少ない。「辞書を引く」は約20ポイントの大幅低下で、教科書をベースにした勉強方法が少しずつ重視されてきている。



家では、どんな勉強の仕方をする人が多いですか。

第3回調査では新たに3項目を加え、合わせて12項目について中学生の勉強の仕方を探ってみた(図1-1-12)。

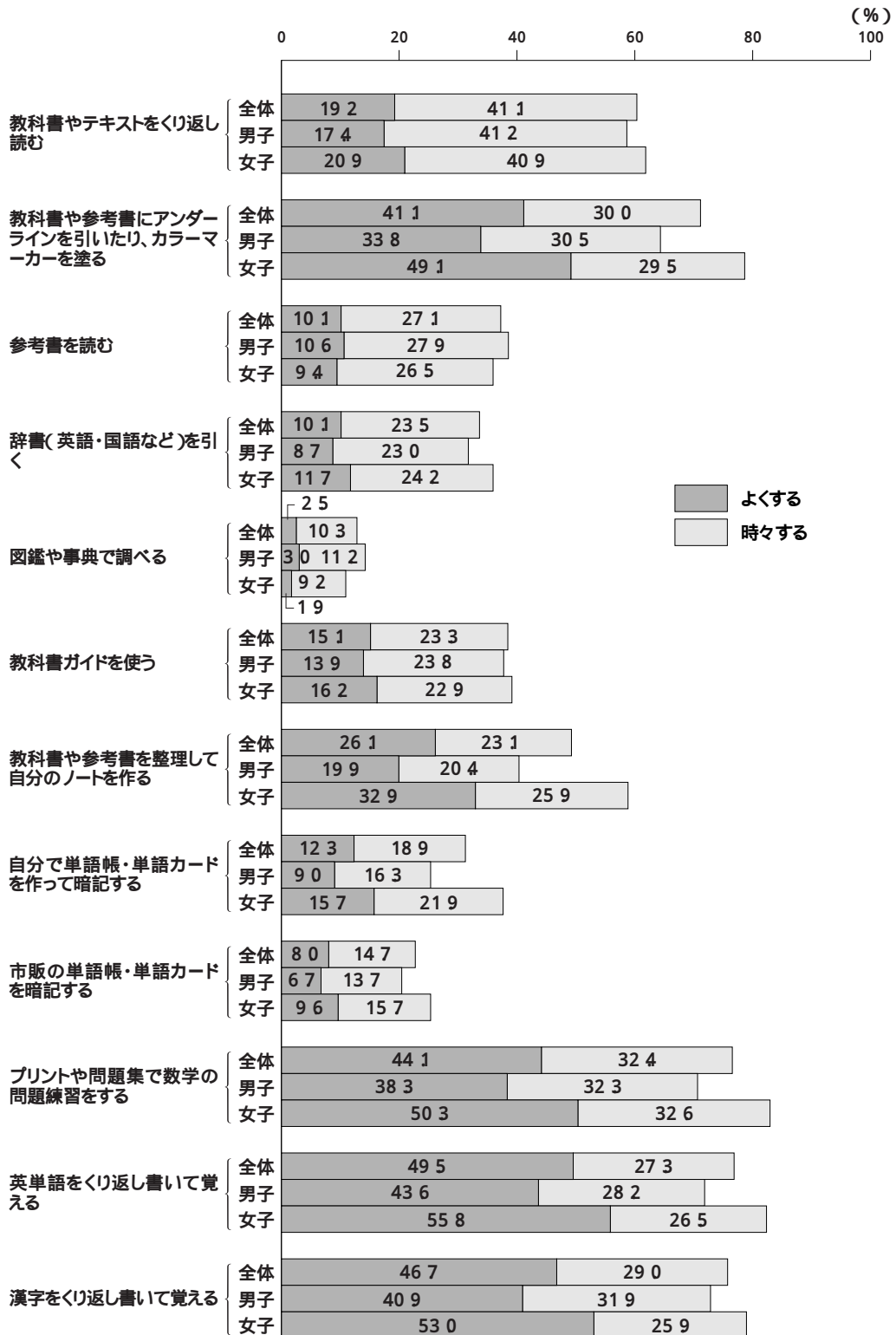
「よくする」「時々する」の合計でみると、反復練習がやはりもっともオーソドックスな方法となっている。「英単語をくり返し書いて覚える」(76.8%)、「プリントや問題集で数学の問題練習をする」(76.5%)、「漢字をくり返し書いて覚える」(75.7%)は、全体の4分の3の中学生にとって一般的な勉強方法となる。「教科書や参考書にアンダーラインを引いたり、カラーマーカーを塗る」(71.1%)も効率よく反復練習するための工夫として定着している。これに対して、自分自身で「図鑑や事典で調べる」(12.8%)という者はごくまれであり、「辞書(英語・国語など)を引く」(33.6%)や単語帳や単語カードを暗記するという方法をとる者も比較的少ない。

性別にみると、女子のほうがさまざまな工夫をしたり反復練習したりする傾向が強いことがわかる。たとえば、「よくする」と回答

した割合で比較すると、「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」は男子で19.9%、女子で32.9%と13ポイントもの開きがある。また、「英単語をくり返し書いて覚える」「プリントや問題集で数学の問題練習をする」「漢字をくり返し書いて覚える」の3項目でもいずれも12ポイント程度の差がみられる。

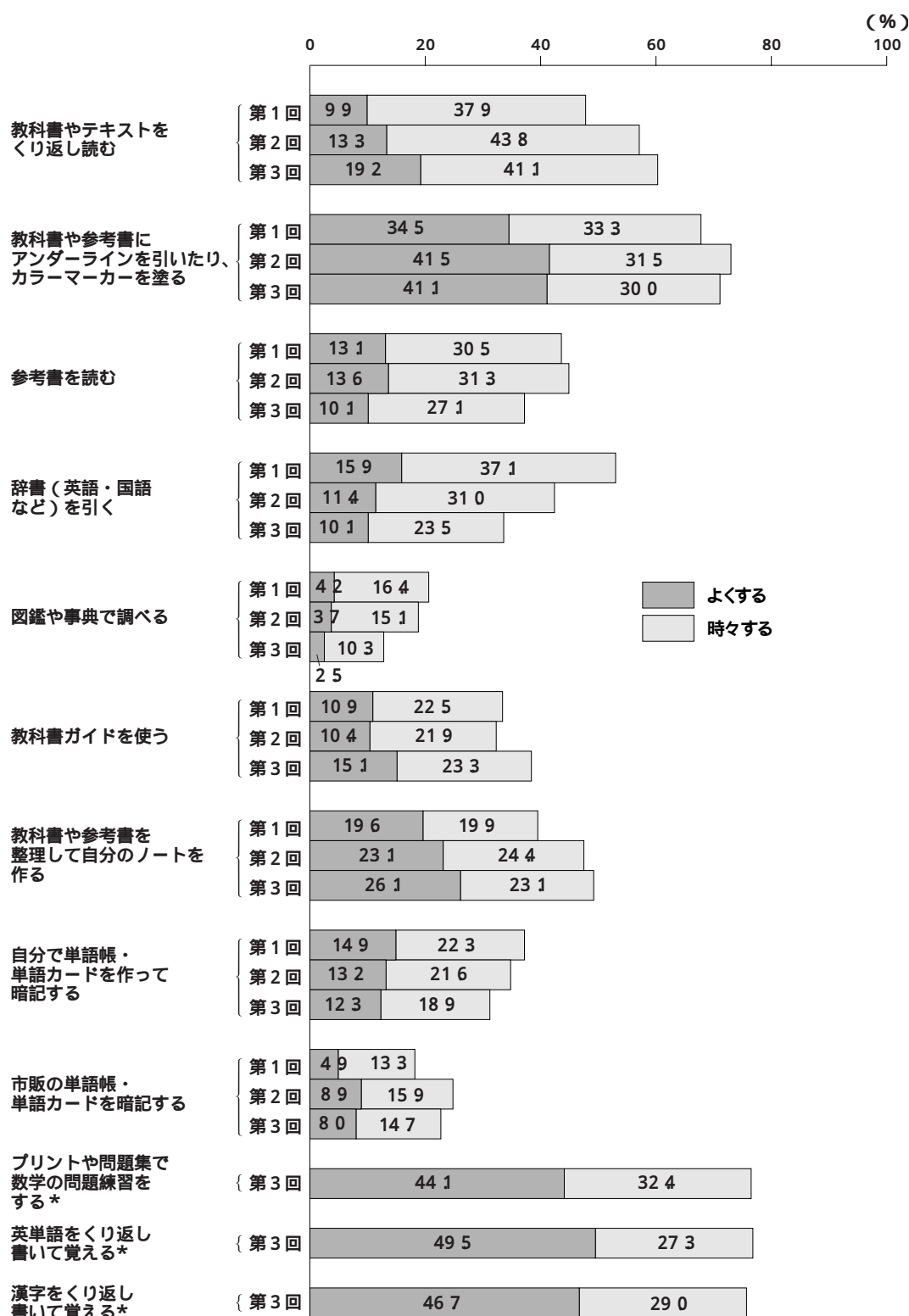
時系列でみると、自分で調べることが次第に少なくなっていることに気づく(図1-1-13)。たとえば、「よくする」「時々する」の合計でみると、「辞書(英語・国語など)を引く」は第1回調査の53.0%から33.6%に約20ポイントの大幅な減少を示している。さらに、「図鑑や事典で調べる」と「参考書を読む」もそれぞれ7.8ポイント、6.4ポイント低下している。これに対して、「教科書やテキストをくり返し読む」では12.5ポイント、「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」は9.7ポイントそれぞれ増えており、教科書をベースにした勉強方法が重視される傾向が読み取れる。

図1-1-12 学習の方法（性別）



注) サンプル数は全体2503人、男子1307人、女子1184人。

図1 - 1 - 13 学習の方法（時系列）



注1) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注2) サンプル数は第1回2544人、第2回2755人、第3回2503人。

②学習方法のタイプ

問題集を中心にした復習が多くの中学生の一般的な学習方法で、試験の前に自分で整理し書きながら覚える生徒が多い。「自分で考えること」が次第に軽視されており、中学生の学習方法の実態は新学力観とは逆行してきている。

Q

あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。どちらかといえば近いほうのタイプに○をつけてください。

(1か2のどちらか近いほうの番号に○をつけてください)

中学生の勉強方法の特徴をより鮮明に描き出すために、互いに異なる一対12組の方法を提示し、いずれか近いほうを選択してもらった(図1-1-14)。

《一方の極に回答が偏る項目》

いずれかの選択肢に回答が集中するのは、以下の6項目である。

- ①「予習中心」(13.5%)よりも「復習中心」(83.3%)
- ②「参考書中心」(19.1%)よりも「問題集中心」(77.5%)
- ③「見て覚える」(25.0%)よりも「書いて覚える」(72.8%)
- ④「毎日こつこつ勉強する」(27.3%)よりも「試験の前にまとめて勉強する」(69.8%)
- ⑤「市販の要点整理などを使う」(27.4%)よりも「自分で整理しながら勉強する」(69.1%)
- ⑥「読んだり、しゃべりながら覚える」(27.6%)よりも「書きながら覚える」(69.8%)

これらの右側の選択肢をまとめれば、現在の中学生の勉強方法の平均的な姿が浮かび上がる。問題集を中心に復習することを重点におき、自分で整理し書きながら覚えるのであるが、それも毎日というのではなく試験の前にまとめて勉強することが多いようである。

《一方の回答が多いものの(6割前後) 圧倒的多数とはいえない項目》

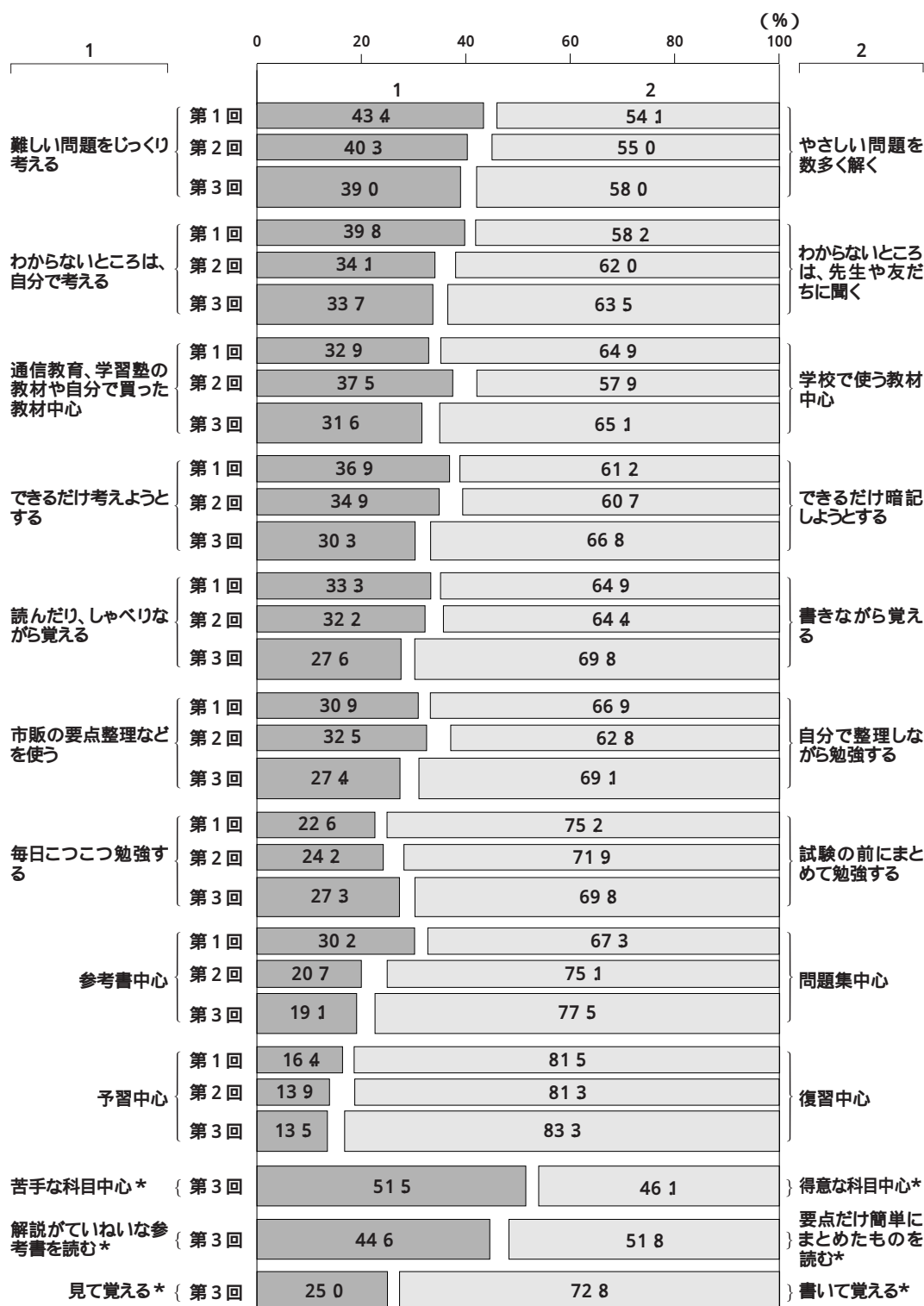
さらに、それよりも回答が分散した項目は以下の4項目である。

- ①「できるだけ考えようとする」(30.3%)よりも「できるだけ暗記しようとする」(66.8%)
- ②「通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心」(31.6%)よりも「学校で使う教材中心」(65.1%)
- ③「わからないところは、自分で考える」(33.7%)よりも「わからないところは、先生や友だちに聞く」(63.5%)

④「難しい問題をじっくり考える」(39.0%)よりも「やさしい問題を数多く解く」(58.0%)
全般的には、難題にじっくりと取り組んだり自分で考えなんとか解決するというスタイルはあまりとられていない。

時系列的な変化はそれほど劇的ではないが、1つだけ気になる一貫した変化がある(同図)。それは、「自分で考えること」が少しずつ軽視されていることである。特に、「できるだけ考えようとする」(第1回調査より6.6ポイント減)「わからないところは、自分で考える」(6.1ポイント減)ことはもともと少数派であり、しかもますます率を落としている。これに対して、「問題集中心」(10.2ポイント増)の勉強や「できるだけ暗記しようとする」(5.6ポイント増)スタイルは次第に広がりつつある。中学生の勉強は、新学力観の目指す方向とは逆にますます機械的なものになってきているようである。

図1 - 1 - 14 学習方法のタイプ（時系列）



注1) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注2) 1、2の間の空白部分は「無答・不明」を示す。

注3) サンプル数は第1回2544人、第2回2755人、第3回2503人。

③メディアの利用

半数を超える中学生が学校でも家庭でもパソコンを利用している。インターネットの利用も盛んである。特に家庭でのパソコン利用率はわずか5年で倍増しており、家庭による情報リテラシー格差が生まれてくる可能性も考えられる。



パソコンやテレビなどのメディア（機械）についてうかがいます。

第3回調査では、第2回調査の項目に「インターネットの活用」にかかわる2項目を加えた計8項目を設定し、中学生の情報メディアの利用状況を探ってみた（表1-1-12）。

利用率（「よくある」「時々ある」の合計）がもっとも高いのは、「学校でパソコンを使う」の55.6%であり、これにわずかの差で「家でパソコンを使う」が続いている。半数を超える中学生が学校でも家庭でもパソコンと接している。パソコンの主要ツールであるインターネットの利用率も比較的高い。「家でインターネットを使って何か調べる」（31.8%）や「学校でインターネットを使って何か調べる」（25.5%）ということを経験している。また、「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」（25.9%）も4分の1を数

える。これに対して、「家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する」（7.4%）者や「家でパソコン用の学習ソフトで勉強する」（8.0%）者は全体の1割にも満たない。「テレビやラジオの講座で勉強する」（10.7%）という伝統的な方法も一般的ではない。

第2回調査からの変化をみると、「家でパソコンを使う」という回答の伸びが際だっている（同表）。わずか5年の間に、27.4%から54.7%に倍増しているのである。「学校でパソコンを使う」の伸びもおよそ10ポイントを数えているが、いまや学校よりも家庭での情報メディア利用のほうが一歩先を行っているようである。このことは、情報リテラシーが個々の家庭の経済状況等に左右される可能性を示している。

表 1 - 1 - 12 メディアの利用（時系列）

（％）

	第 1 回（2544）	第 2 回（2755）	第 3 回（2503）
家でパソコンを使う	—	27.4	54.7
学校でパソコンを使う	—	45.1	55.6
CD 教材やビデオ教材を使って勉強する	16.1	25.8	25.9
テレビやラジオの講座で勉強する	8.1	12.5	10.7
家でパソコン用の学習ソフトで勉強する	—	4.8	8.0
家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する	—	5.3	7.4
家でインターネットを使って何か調べる	—	—	31.8
学校でインターネットを使って何か調べる	—	—	25.5

注 1）数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注 2）—は該当項目なし。

注 3）（ ）内はサンプル数。